



二十四孝

虞舜 孝感動天

漢文帝 親嘗湯藥

曾參 嚙指痛心

閔損 單衣順母

仲由 爲親負米

董永 賣身葬父

剡子 鹿乳奉親

江革 行傭供母

陸績 懷橘遺母

唐夫人 乳姑不怠

吳猛 恣蚊飽血

朱壽昌 棄官尋母

王祥 臥冰求鯉

郭巨 爲母埋兒

楊香

搯虎救父

庾黔婁

嘗糞憂心

黃香

扇枕溫衾

姜詩

湧泉躍鯉

老萊子

戲綵娛親

蔡順

拾棹供親

王裒

聞雷泣墓

丁蘭

刻木祀親

孟宗

泣竹生笋

黃庭堅

滌親溺器

虞舜 孝感動天

有虞氏帝舜姓ハ姚名ハ重華黃帝の後なり。父を瞽瞍といふ。幼て母を喪ひ、父後母と娶る。弟象を生む。父頑。母嚚。象傲き。父後母と象と迷ひて。悉く舜を殺さんと欲す。象といふ。とあやふさびのうねり。いつく孝行を尽し、終つ。いまだ童く。おはせし時。歴山といふ所に農作し終つ。人皆畔て。己が田れ界を譲る。争ふ。或ハ大衆あつて。鼻をく。田をか。諸鳥く。草刈ひ。其たをけと。なれなど。孝徳の感應甚き。多し。時。帝堯舜れ聖徳をさう。久き。帝子ハ。ま。させ。方民の爲。御位をゆ。て。娥皇女英といふ。む。後妃。立。ひ。く。但。帝歳二十九。登。庸。六十二。帝位。即。在。位。四十八年。帝壽百十歳。崩。終。



漢文一帝親嘗湯藥

漢の文帝諱ハ恒高祖れ中子。沛母を薄大夫人とす。代王に封ぜしむ。惠帝崩じて子なく。呂后崩じて後諸大臣むつて。天子とあふ。なまら。沛母はけうて沛孝行なましく。沛母かりそめの沛病は臥ひ。已に二年及ぶ。帝其間衣冠を解。終る。登夜沛目まづる。す。睡をこし。沛看病ま。沛茶。又ハ朝夕れ供沛をも。沛る。り。嘗る。る。終ハ。され。ば。そ。め。な。ま。ら。せ。終ハ。さ。る。る。天子れ。た。と。と。沛身。ま。か。く。沛看病。せ。さ。終。お。れ。其。平。日。の。沛孝行。お。も。べ。い。さ。ま。ば。か。く。あ。う。が。る。沛孝徳を。内。ま。を。そ。め。外。仁。政。を。天。下。に。施。し。終。い。め。で。こ。沛世を。あ。ろ。し。め。す。事。い。う。一。れ。堯舜と。等。く。稱。し。な。り。る。



曾參 醫指痛心

曾參字子輿魯の南武城人なり。孔子の弟弟子なり。道統の傳を承ぐ一人なり。其孝心あつて。孔子こそが爲に孝經を授けたり。或時曾參山中へ薪を採る行き。あゝ母の恙ありと人來りて告ぐ。母をてなぐ。おもひ給へども曾參あやあやと尋ね。うゝまのせむのゆゑ我子をやかくしき。うゝと思ひて。何となく。自ら指を嚙み。ひくま。山中にあり。曾參たちまち心痛くるま。おどろき。母の心身れ上るをわく。心おどろき。いそぎぬる。あゝ既なり。母はたちまち死する。曾參の痛。なをやく。うゝま。うゝま。母はわ。うゝ。次第なり。孝子れ親を忘る。謀の志。感。ひ。



関損 單衣順母

関損字ハ子騫ハ孔子ハ御弟子十哲の一人として孝なる武
 と。孔子のはめさせ給う人なり。幼して母を失ひたり。後母
 二人の子ありて己の子とせしむ。関損を惡て冬寒しハ芦乃
 穂を給ひて之を以て衣せしむ。いさも恨をもち孝敬はるさ
 せり。或曰父他へ行。関損は御とて車のかさよ傷て馬を
 御事と令し。肌寒てはしむる事あるや。よりより衣
 着く。芦の穂を給ひたるを以て大に怒り。継母を去んとす。
 関損父をいさめて言ふ。ハ母も我一人を以て二子に過す。
 母もいさされハ二子に過す月とす。ものなると。こももよき
 かん。と。さあられ父も其理を以て入る。母も愧悔て。こもこ
 りく。さあられ。こもなる。是至孝れ人を感ぜしむるなり。



仲由 爲親負采

仲由字子路。泗水の人其性勇猛なるむ。孔門十哲の一人也。
 家貧一うして常に藜藿を食く人よと云ふ百里凡は方の
 のをさう。采負ひてこひ身甚苦しめ其賃をとりて而
 親を喜ばしむ。父母没して後楚國に往く大功を立て
 富その身となる常に鼎をつねて食し粟を積蓄し
 事万石に及び出ると百輛の車に及ぶ居ると錦の茵
 を重ひ榮耀するやうな事なり。志うとせむとせ
 ころこびとせむ。猶昔乃て藜藿を食ひわづれ賃錢を
 身に當りて父母を養ふなり。是のこころなるはと
 と常に涙を流してなげきたり。孔子を聞きては
 うるふかたなり。死せしむて思ふと云ふもの也。稱養
 たり



董永 賣身葬父

後漢の董永字延年。父死、母喪ひ常一人は傭きて父を奉る事。孝心の誦をなせり。父死して葬むと便なく。目下傭主へ主人れ家より銭十貫文を貸て。身を賣り。永くその家の奴僕となると約束し。銭をひて其禮を完。主人の家へ還ると。路次にて美しき女と遇ふ。女強て妻とならん事おめ共主人の家よりて。董永が暇を乞け。強三百匹を織た。後ゆゑんといふ。女三百匹の多を僅一月の中へ畢せり。主人は悦びなく放し。くれは夫婦喜び連て。げめ遇ふ地に至て。董永は對ひ我ハ天帝の織女なり。君が至孝を天帝感し。給ひて我を令じ。債は償せ給ふと。語に。雲は乘虚空。凌凌て。おを去り。



剡子 鹿乳奉親

剡子ハ其名字時代を詳せども相傳て孝行れ名を
 稱せり。父母老て眼を患くもハ剡子かな。醫者療治
 尽くも鹿の乳汁を用き愈づ。と云く。鹿乳を
 得人事哉。おもふも。鹿を殺して乳の出る事あり。と云ふ
 身又鹿皮を蒙り。鹿の群中より中より。取て乳汁を
 うかひ求く。と云。獵人実の鹿とおもひ。近く來りて
 射とんと。剡子声をあげ。志あるの。と云
 述く。が。さ。わ。び。く。と。云。け。獵人。も。さ。と。う。孝心
 感。弓矢をふせて通う。と云。ん。か。く。と。云。あ
 や。と。事。を。な。や。も。親をおもふ。孝子は。志。天の。ん
 そ。な。ハ。て。必死の。鏃を。免。け。ぬ。と。云。なる。と云



江革 行 傭 供 母

後漢の江革字ハ次翁存國臨淄の人なり幼して父イ
 おろき母又はくつて孝行の聞えあり其比天下乱れ
 母を背負ひ遁るる難難経るやうくは栖死を
 とめり。其の身ハ裸又足ハ跌るる今傭を其賃を
 とりて母をやりなひなぐさめり世をさうて故郷へ
 かつりる車にかりてのせまき牛馬よりハおどろき
 ろん事成はるる身成轆の中へ入て引るな
 どとて公を用る事けたぐひなりよいてそは江巨孝と名
 付てこゝに稱歎しる。巨孝とハ大なる孝子といふ事也
 かく其名せよあはるる成ひく朝廷へめされ高友成ね
 し。初末めでたく終るれり



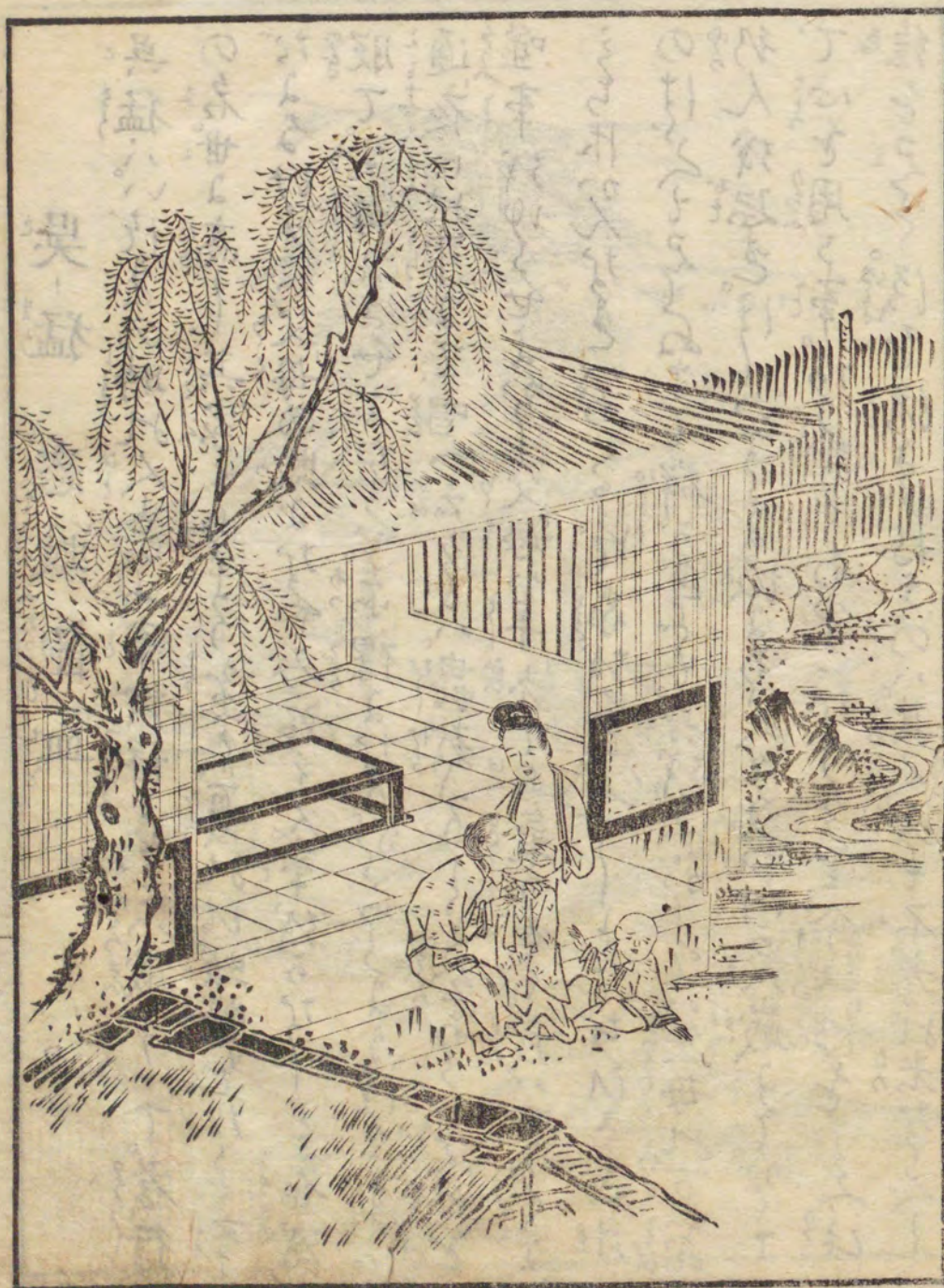
陸績 懷橘遺母

陸績字公紀、三國の時、呉に孫權より一人たり。博學多識、よく星歴算數をり、華通たり。五歳の時、九江郡といふ所なる袁術とて、當時威勢あはれ、その方へ召さる。橘が出しきてなり。陸績は三枚を懷より。母の時、獨りかめ、禮拜とて、地におもろ。袁術も驚きて、方へ賓客となす。て、いよく尾純の事をきく。つとをうり、めれば、陸績跪て、児が爲より珍果をむげ、よくけん事をし。持ちかへ。母はこれとて、なしくなり。をやなり。これに袁術をけり。め、術のく。幼きもの。孝を含んで、其のく。迷ひ、且長者の對するの礼を知て、跪き答へ、其孝悌、天性なる事、誠感する。されば、千載の後までも、孝子れ、施る。



唐夫人乳姑不怠

唐夫人ハ唐の博陵なる崔南といふ人の妻なり。姑の長孫夫人は之て孝を尽せり。姑年老齒なりて。食事のまじなうざりぬ。朝夕乳をふりて之を養ひ。晝といふまじや。無病して壽をたもれり。後長孫夫人病に臥し。これハ子孫法儀をありて。我かく天壽を乞ふ。一統をやとく。事偏厚夫人が多年の供養をうたふ。よめ。只此恩を報して。今般時及之を憾とす。いと。感涙を流し。唐夫人をお慰し。預けハ子孫のまじは夫人の孝をまじひぬ。ゆゑを孝のまじひ。言。さう。これハ。終らぬことなん。い。う。婦人。姑。孝。とて。中。あ。さ。な。う。ハ。な。う。な。う。が。睦。ハ。千。載。れ。美。法。な。う。や。



朱壽昌棄官尋母

宋朱壽昌七歳の比父新は美女を娶て壽昌の母去ける。それより母をんごう事成りかゝるをげきて一日もわををさうたり。ある日も父又後母をたうて孝道成る。父存生のうち一旦離別し終る母をさる。父への無礼後母のちがかり成あそひの中よの深く慕ひていつうも色よ出さざり。五十年経て官禄をきて天は誓き謂く我若母のながく在さずしてをさるるをば再びあより。母は交るべからずして行方をさるるなり。からうどてたつてさう。は時母の齡七十を踰れども猶壽をたもてめぐる。くる事。孝公のまめたるが故なり。や。遂は朝廷に上りて。顯官厚禄を賜り。となん。實は神宗皇帝熙寧中此事也。



王祥 臥冰求鯉

晋の王祥字ハ休徵天性至孝の人なり。継母不慈なるも恨
とせども愈恭謹とせり。父母疾あり時ハ晝夜側ありて粥を解
き湯を煮るも先嘗味づればそめさるなり。寒天の比母の生
魚を食はんといふる。水凍りて魚を取むに便なけども其望
を遂げん事なげき池に臨みて魚を求む衣を脱て氷
の上より臥し身れ温まりて氷割んと其志の篤き感應とやさ
しもをり氷ゆる厚氷忽ち解て双鯉躍出り。母又黄雀
の炙を乞ふる。黄雀を欲む黄雀數十を入る
なり。其孝感の致す家を郷里に傳へて人々聞て歎美せり。又
庭前ニ木ありて丹く実まき。母を侍てこれを守る。風雨
発る時ハ樹を抱て泣く。其孝徳天下にありはる。遂に三公に至り



郭巨 爲母埋兒

後漢の郭巨。字ハ文舉。が貧乏なれば。老母を養ふ。その食乃
 不足なり。事甚だ悲し。一子あり。己ハ三歳。老母を養ふ。其
 我食の中を分ちあふ。郭巨いふ。母の食れ乏し。かんと
 あして。妻は語りいふ。ハ我身かく養ひて。母は供を我
 事。心のやうなり。母の孫を養ひて。分ちあふ。我は
 くづくおもしろ。主婦の縁をば。子ハ又もあふ。母ハ再び
 べうず。我子。我を殺して。母を養ひ。いと。おもしろ
 いと。いふ。子ハ孝子。其妻は涙をなす。其言は。是。こ
 らハ一思ひ。埋殺さん。と。坑ヲ掘る。事二三尺。して。黄金
 一釜。釜ハ金の兩數。をば。上。文字あり。曰。天賜孝子郭
 巨。此より。家富名顯。して。孝道を。是。愛成。全く。せり。



七

A detailed botanical illustration of a plant stem. The stem is thin and vertical. At the bottom, there is a large, heart-shaped leaf with a prominent central vein and several smaller veins branching off. Above this leaf, there is a smaller, pointed leaf or bract. The illustration is rendered in a classic, scientific style with fine lines and shading.



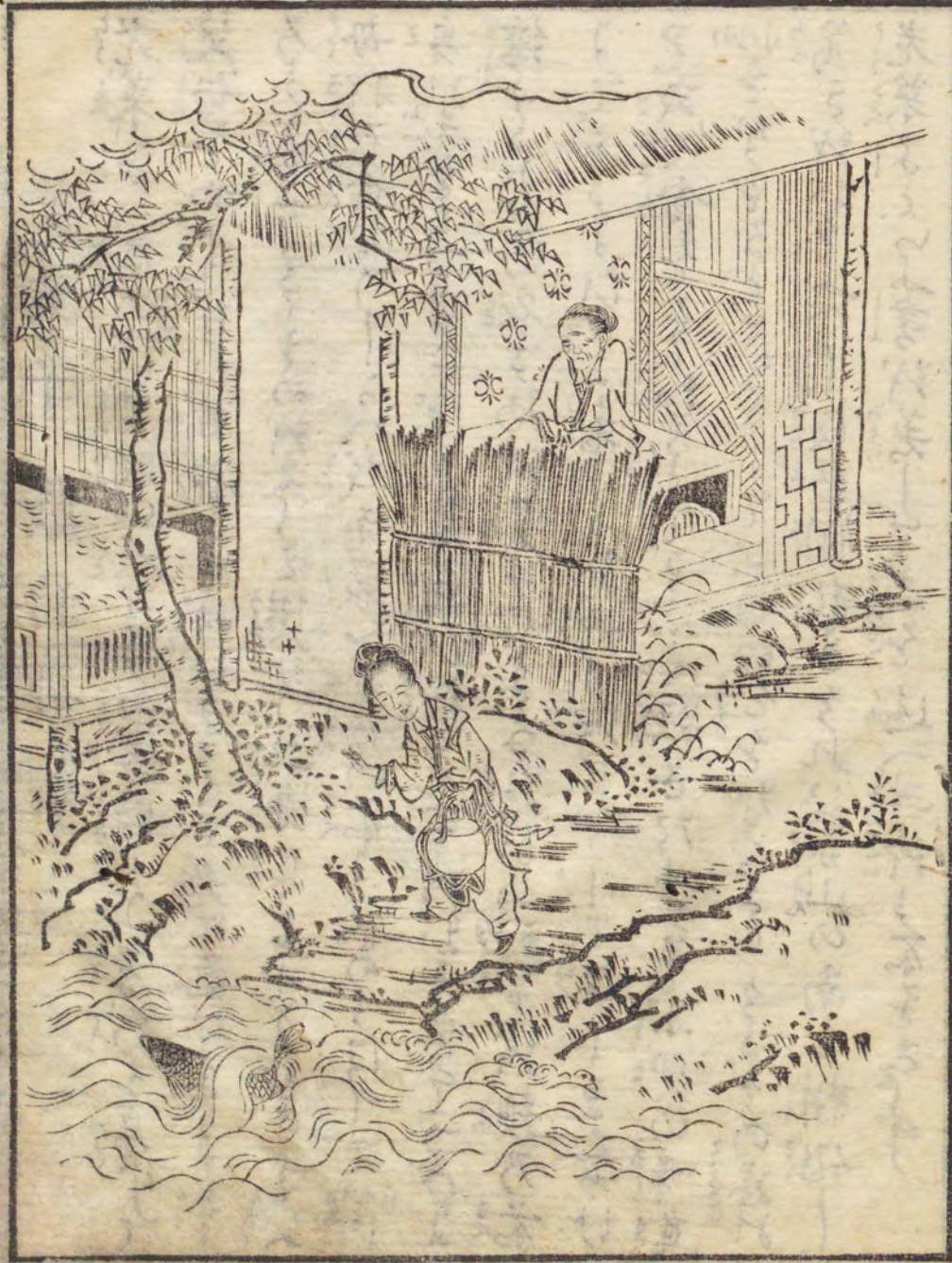
黄香 扇枕温衾

後漢^{後漢}此^此黄香^{黄香}字^字文强^{文强}。经典^{经典}を^を学^学び^び道術^{道術}を^を究^究め^め。文章^{文章}と
能^能と^とを^をつ^つく^く。其^其名^名あ^あり^り。九^九歳^歳の時^時母^母を^を失^失ひ^ひ其^其悲^悲を^をや
せ^せと^とろ^ろへ^へ命^命を^を危^危き^きま^まに^にま^ませ^せり^り。素^素衣^衣を^をか^かき^きて^て。婢^婢僕^僕な^なく^くも^もバ
父^父は^は死^死つ^つて^て。躬^躬ら^ら力^力を^を竭^竭す^す。夏^夏の暑^暑さ^さに^には^はた^たく^くな^な床^床を^を扇
ぎ^ぎ。枕^枕を^を涼^涼く^く。冬^冬の寒^寒さ^さに^には^は衣^衣を^をひ^ひや^やあ^あな^なん^ん事^事哉^哉
お^おも^もひ^ひ。身^身を^をひ^ひく^く床^床の^のひ^ひや^やあ^あな^なん^ん事^事哉^哉
ろ^ろを^をは^はく^くろ^ろひ^ひ。そ^そう^うに^にお^おも^もは^はれ^れ中^中に^には^は。こ^こう^うに^にあ^あま^まて^て。こ^こ
れ^れが^がぬ^ぬか^か。侍^侍養^養を^をし^して^て。其^其名^名せ^せま^まが^があ^あり^り。朝^朝廷^廷に^に
は^はつ^つて^て。尚書^{尚書}令^令魏^魏郡^郡太^太守^守に^にな^なり^り。子^子の^の黄^黄瓊^瓊其^其子^子孫^孫を^を高^高
官^官に^に昇^昇進^進せ^せり^り。禮^禮記^記に^に。為^為人^人子^子之^之礼^礼冬^冬温^温而^而夏^夏清^清。昏^昏定^定
而^而晨^晨省^省矣^矣。い^いつ^つる^るハ^ハ孝^孝子^子に^に勤^勤む^む所^所に^に。黄^黄香^香れ^れめ^めき^き是^是也^也



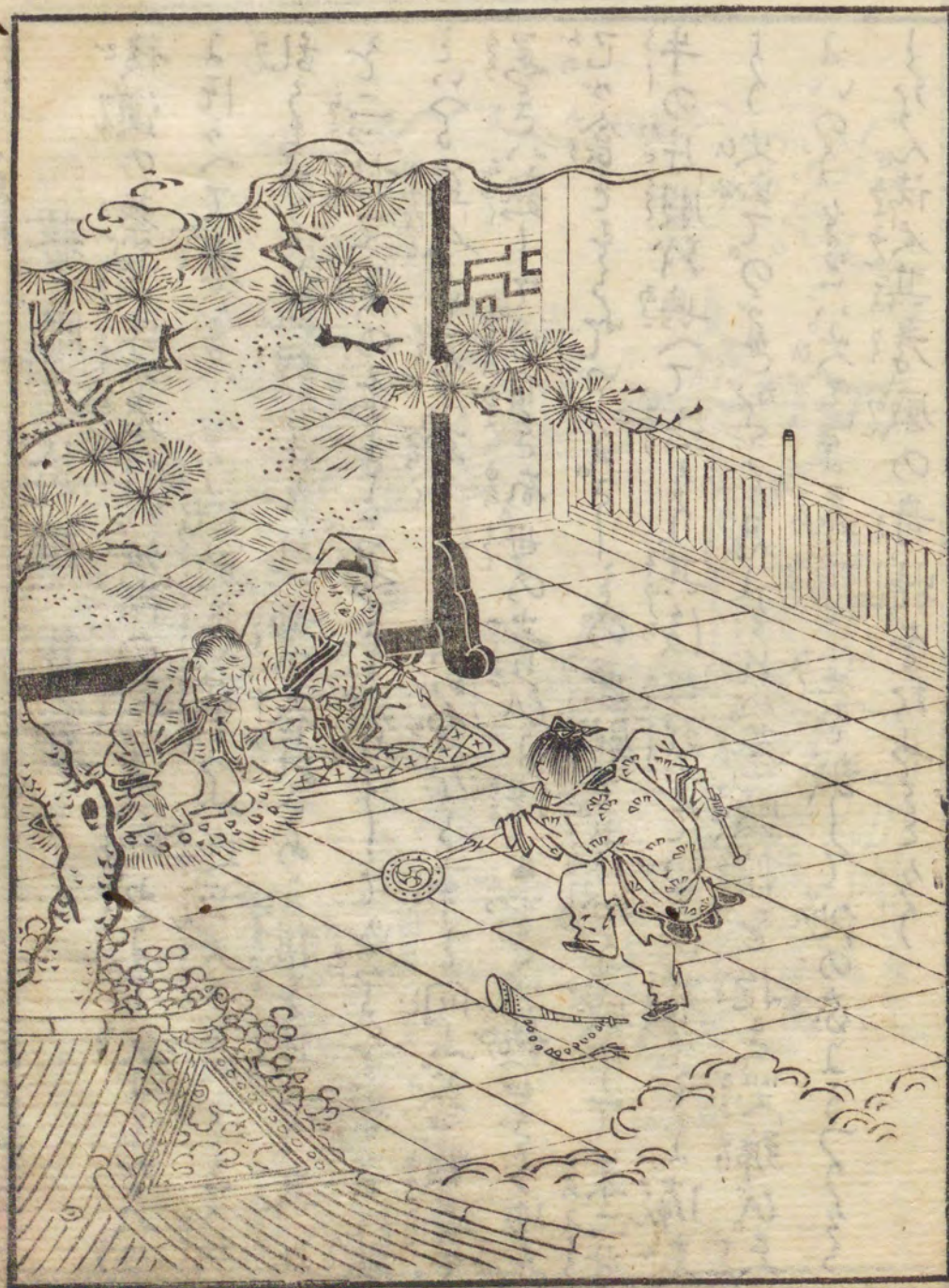
姜詩 湧泉躍鯉

後漢姜詩母に侍て至孝なり其妻龐氏も亦姑乃
 意に順ひ命に逆ふ事なり母井の水をさへひ江水とのむ
 事成ぬや姜詩が近く清江なとより龐氏曰くそと
 よとて清江を汲るるや或日風をけりてふく
 りくもバ姑の外の怒りのまうるを姜詩其怒り休
 めんぐりめ妻を遣ふしや龐氏こそ其恨こそせむ父母家
 りてもうす隣家の老婦をたのきて登板紡績を事し姑
 のぬめその誠調へ老婦を托してなぐさくは後バ姑
 りををて我短意を悔てふびふくく又母生魚の脍を
 りのくくを常と調てさめり後舎れ側は清泉湧て其味
 江水と異なりは水より毎旦双鯉出て供養の芳と助くる也



老萊子・戯・綵・娛・親

老萊子ハ周の代・楚國の人なり。老を慕ふ。孝行を尽して。父母をや・ない甘脆とて味ひうまくて。老て齒なきも。ろろ食せしむる。或は之を供へる。其身已に七十。父母母存命なり。我老衰を父母の前して。あつて。身れ老をうつゝ。是ては。思ひ。事。親。乃。前。縁。つゝ。小兒の衣を。お。は。て。を。お。ひ。の。親。乃。前。て。ふ。も。い。は。老。お。は。て。て。小兒の啼。真。或は食を。も。て。て。跌。た。き。て。小兒の啼。真。い。を。な。と。ど。か。く。て。父母の。を。な。と。ど。か。く。て。其の忘れ。篤。我。を。一。後。楚國。乱。を。く。れ。蒙。山。の。南。耕。作。老萊子。と。い。ふ。書。に。著。して。志。を。述。べ。其。終。を。を。あ。げ。ず。



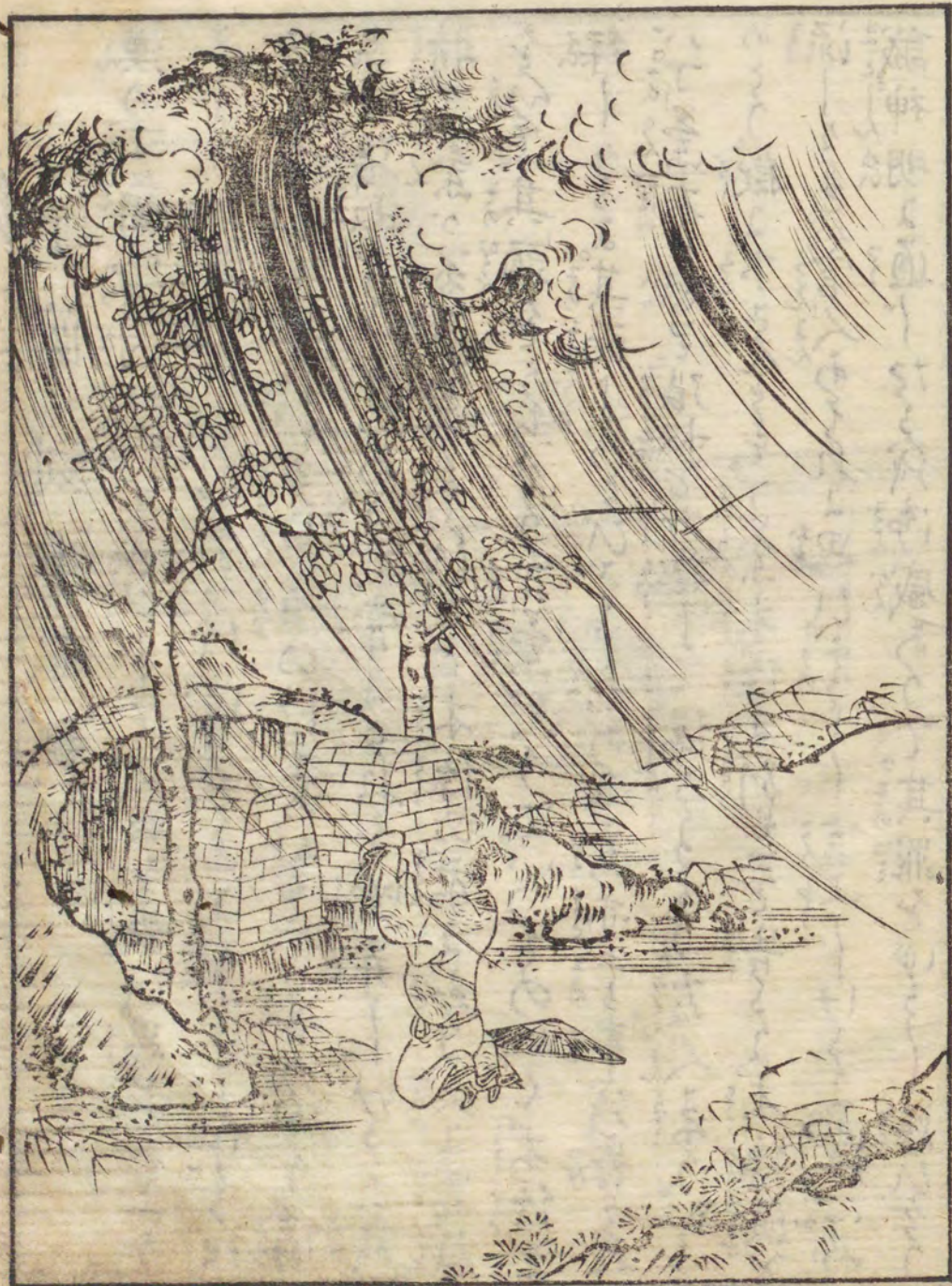
蔡順 拾樵供親

後漢の蔡順字ハ君仲ハ汝南の人なり。幼少して父よりなれ母
 2はつて孝を尽せり。時王莽といふ逆臣天下をぬそとて兵
 乱うちつゝ。飢饉いりれば母の養れいめ。樵を拾つ。其器
 を二つ持て。実の赤ととて。おこして。盛るを。赤眉賊
 といふ盗人もゐて。おこしを。いめ。なる事と同ふ。蔡順答て
 2と。ハ熟して味甘き。母の孝い。倍へ。ハ熟せ。ゆゑ
 己が食とも。や。その悪賊も。孝公を感て。赤二斗
 牛の片股銭與へて去る。其後母死。い。葬せ。ハ。ハ
 火出て。の。が。く。ハ。蔡順棺を抱き。哭弔び。天
 2いの。火。順の宅を。他。家。う。う。
 と。人。其。孝。感。の。奇。特。を。た。う。う。



王^み哀^い 聞^{きこ}雷^{らい}泣^な墓^ぼ

晋^{しん}の王^{おう}哀^い字^しハ偉^い元^{げん}。少^{せう}時^{とき}より心^{こころ}は操^{そう}を立^た。博^{はく}学^{がく}多^た能^{のう}な^る人^{ひと}なり。父^{ちち}王^{おう}儀^ぎ罪^{つみ}な^るく^て。文^{ぶん}帝^{てい}ハ害^{がい}せ^られ^し。終^{しゅう}身^{しん}ハ西^{せい}の向^{むか}て坐^ませ^し。文^{ぶん}帝^{てい}西^{せい}は都^と其^{その}朝^{あさ}ハ臣^{しん}だ^る事^{こと}と示^{しめ}す。父^{ちち}母^{はは}れ墓^ぼの側^{かたはら}ハ小^{せう}庐^ろを造^{つく}り。朝^{あさ}夕^{ゆふ}墓^ぼ前^{まへ}ハ臥^ふてお^し。跪^{ひざまづ}き。信^{ちやう}は植^{うゑ}る。拓^{たく}樹^{じゆ}を攀^{よぢ}て父^{ちち}の罪^{つみ}な^るく^て死^しせ^し。我^{われ}泣^な悲^ひしむ。涕^{なみだ}涙^{なみだ}はて拓^{たく}樹^{じゆ}終^{しゅう}ハ枯^かる。又^{また}母^{はは}存^{ぞん}生^{じやう}の時^{とき}甚^{こゝろ}ハ雷^{かみなり}を畏^{おそ}る。あ没^{もく}し^ても雷^{かみなり}の鳴^なる時^{とき}ハ。豆^{まめ}板^{いた}をい^はす。輓^{そと}墓^ぼ前^{まへ}ハ臥^ふて。哀^いはあ^う。哀^いはあ^うと云^いて。生^いる事^{こと}は。い^はす。其^{その}身^み隱^{いん}居^{きよ}して。經^{けい}術^{じゆつ}を徒^たに授^{まな}る。持^も經^{けい}蓼^{りやう}義^ぎ篇^{ぺん}の哀^いハ父^{ちち}母^{はは}生^な我^{われ}劬^{くろ}勞^{らう}と云^いふ。復^{また}して涙^{なみだ}を流^{なが}る。あ。門^{かど}人^{ひと}皆^{みな}は篇^{ぺん}を除^{のぞ}き。と人^{ひと}素^{もと}より。富^ふ貴^き死^しを。躬^{こつ}耕^{かう}して其^{その}操^{そう}守^{まも}る。



丁蘭 刻木祀親

漢の丁蘭ハ河内人なり。少して父母を喪ひ。思慕のふり
 まじり。おゝ刻て其がら成造る。そまふ事とせしむに
 けうふくごく。朝夕定省のほあふりたり。其
 家ハ張叔なるものありて。常よりこれを嘲弄しけり。成
 時丁蘭がるちをうづひつと本像の前より大に罵杖
 をひて。其頭をうちたり。丁蘭かうて。いつものめく本像と
 拜しけり。其面よりさびさる色あり。妻亦その事告ぐれ
 バ。丁蘭大に怒り。張叔をお擲して。傷よりたり。た人あり。か
 めたり。獄より下さんとせり。丁蘭本像より別れを告ぐ。本像涙を
 流しけり。官人あそれと思ひけり。言よりけり。孝心乃
 誠神明に通じたり。我涕感ありて。其罪をゆるし給ひたり。



黃庭堅
滌親溺器

宋の黄庭堅字魯直自ら山谷道人と號を幼して警
悟博學として文章をよくし尤詩は長き。東坡の門に遊ぶ
といへども其名を等くして。蘇黄と稱せられ天下に文宗なり朝
よはつて官高く家富む。親は孝を盡せり。母病は臥然
ふ時ハ其看病を怠らざり。事最篤く昼夜かた
ちよ侍りて衣帶を解ふ。茶を煎て食せしむ。其
よう。大小便をとめては。水を汲其器に注ぎて
之を以て之れをせり。其孝公
の程をおもふべし。きやうあまこれなり。はるに富
貴れ身して其勞を厭ふ事。けがらふこと忘るす
や。學問して道を究むる人なり。はたきなり。が

畫圖 法橋岡田玉山

彫工 松井忠藏

天明八年戊申正月發行

京都書林 額田正三郎

江戸書林 西村源六

大阪書林 松村九兵衛

全 葛城長兵衛

全 吉田善藏

全 池永太郎吉

後印本に

心齋橋北久太郎町五丁目

榮壽亭

東園

